

平成29年1月24日(火) 第4校時 1 教室 指導者

1 単元名 大きいかず

2 単元の目標

- 100までの数を10ずつまとめて数えるよさに気づき、身の回りから進んで100までの数字をみつけようとする。
(算数への関心・意欲・態度)
- 100までの数を「10がいくつと、1がいくつ」、100を少しこえる数を「100といくつ」という見方でとらえることができる。
(数学的な考え方)
- 100までの数や100を少しこえる数について、数字でかいたり数直線上に表したりするとともに、数の大小比較をすることができる。
(数量や図形についての技能)
- 十進法を理解し、100までの数や100を少しこえる数の表し方や意味がわかる。
(数量や図形についての知識・理解)

3 単元の評価規準

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
100までの数を10ずつまとめて数えるよさに気づき、身の回りから進んで100までの数字をみつけようとする。	100までの数を「10がいくつと、1がいくつ」、100を少しこえる数を「100といくつ」という見方でとらえることができる。	100までの数や100を少しこえる数について、数字でかいたり数直線上に表したりするとともに、数の大小比較をすることができる。	十進法を理解し、100までの数や100を少しこえる数の表し方や意味を理解している。

4 指導と評価の計画 (全13時間)

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	考	技	知	
一	1	・10の束が2つとばらが6本で「にじゅうろく」というように数のよみ方について知る。	○		◎		・10のまとまりをつくって数え、「10のまとまりがいくつとばらがいくつでいくつ」と表現することができる。 (発言・ノート)
	2	・教科書の数え棒を数えて数字に書き表し、2位数の位取りについて理解する。 ・十の位と一の位の用語を知る。				◎	・位取り記数法では、数字を書く位置によって違う大きさを表すことを理解できる。 (発言・ノート)
	3	・「10がいくつと1がいくつ」に着目して2位数を数字に書く。 ・2位数から「10がいくつと1がいくつ」と表現する。			○	◎	・「10が○つと1が△つで、□」という見方や、「□は10が○つと1が△つ」という見方で2位数をとらえることができる。 (発言・ノート)
	4 本 時	・100枚の葉を工夫して数える。 ・100について「10が10こで100」「99の次が100」であることを理解する。		○	○	◎	・10を10こ集めた数が100、99の次の数が100であることを理解できる。 (発言・ノート)
	5	・100までの数表をつくり、気が付いたことを発表する。 ・かくれた数をあてる「かずあてゲーム」をする。	○	◎			・100までの数表に関心をもって、きまりをみつけようとしている。 (発言) ・100までの数を正しく書くことができる。 (ノート・プリント)

6	・100までの数の大小比較の仕方を考える。		○	◎	・十の位の大ききでくらべればよいことがわかる。十の位が同じときは、一の位でくらべればよいことがわかる。 〈発言・ノート〉
7	・数の大きい順に並ぶ活動をする。			◎	・100までの数の系列や順序を理解する。 〈観察・ノート〉
8	・すぐろく遊びをする。	◎			・意欲的にすぐろく遊びに取り組みようとしている。 〈観察・発言〉
9	・お金の模型を使って、 (何十) + (何) = (何十何) や (何十何) - (何) = (何十) の 計算の仕方を考える。			○ ◎	・2位数の構成について理解し、 (何十) + (何) = (何十何) や (何十何) - (何) = (何十) の 計算をすることができる。 〈観察・ノート〉
10	・身の回りで100までの数字が使われているものを探す。	◎			・身の回りにある100までの数字を意欲的に探そうとしている。 〈発言・ノート〉
11	・100をこえる数のよみ方、書き方を、数え棒を対応させながら理解する。			◎ ○	・100をこえる数の構成について理解し、よんだり、書いたりすることができる。 〈発言・ノート〉
12	・100をこえる数の順序を調べるとともに、数を数直線と対応させる。 ・品物の値段をよみ、100円で買える物と買えない物に分ける。			◎	・100をこえる数の順序について理解する。 〈観察・ノート〉 ・100をこえる数の使われ方について理解する。 〈発言・ノート〉
13	・本単元の学習内容をたしかめ、自己評価する。	○		◎ ○	・本単元の学習内容を理解し、100までの数や100を少しこえる数を正しく表すことができる。〈発言・ノート〉 ・分かったことややってみたいことなどを整理して書こうとしている。 〈発言・ノート〉

5 指導上の立場

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領、第1学年の2内容A「数と計算」(1)(2)に示された指導事項のうち、100までの数や100を少しこえる数の表し方と意味理解、計算指導のために設立された単元である。

第1学年 内容A 数と計算

(1) ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。

イ 個数や順番を正しく教えたり表したりすること。

ウ 数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。

オ 2位数の表し方について理解すること。

カ 簡単な場合について、3位数の表し方を知ること。

キ 数を十を単位としてみること。

(2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。

ウ 簡単な場合について、2位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。

また、内容の取扱い(2)に示された指導事項も含まれている。

本単元までに「1 かずとすうじ」、「3 いくつといくつ」で10までの数の概念、合成・分解を学習してきている。さらに、「8 20までのかず」で20までの数を10といくつというとらえ方で学んできている。

本単元では、100までの数や100を少しこえる数について、ものの個数や順番の数え方、表し方、意味、大小比較について学習する。

(2) 児童観

本学級の児童(男子 名, 女子 名, 計 名)は, 算数の学習に意欲的で, 自分の答えを進んで発表しようとする児童が多い。また, 学習内容を全体で確認した後にペア学習を行うと, 相手に正しく伝えようしたり, 相手の説明を最後まで聞いたりする姿が見られる。1学期の「かずとすうじ」の単元では, 自分で数を数えようと積極的に取り組む姿が見られた。10のまとまりを意識しながら数えようとする児童が増えている一方で, まとまりを意識しにくく数え間違える児童もいる。

(3) 指導観

本単元では, まず数を数えるときに10のまとまりを使うよさを感じさせたいと考える。印をつけたり, 書き込んだりすることで, 正確に数えることができるということを指導し, 数え方の見通しをもって取り組ませたい。また100という数のとらえ方について, 一斉授業の場面において「10のまとまりが10個で100。」「99より1大きいかずが100。」という2つのとらえ方を教え, 児童に理解させたいと考える。そして, それらの内容を, 児童が全体の場合やペア学習で繰り返し説明することを通して, 理解を確かなものにしていくような学習展開にしたいと考える。また, 全ての児童に100という数のとらえ方・表し方という基礎的・基本的な内容の定着を図るために, 以下のような学習指導の工夫を, 単元を通して繰り返し行いたい。

ア めあて(目標)を示す

めあてを把握し, 学習の見通しをもたせるために, 単元を通してめあてや学習の流れを統一する。20までの数や20をこえる2位数を数えたような今までの学習の流れを意識しながら, 本時の授業を進めることで, 児童が既習事項を使えばよいということに気付くことができるようにする。

イ 自分で考え, 表現する時間を確保する

限られた一単位時間の中で, 児童が自分で考え, 表現する時間を確保するために, 以下の点に留意し指導を行う。

(a) 学習規律を整える

学習活動のテンポをあげるために, 学習規律については1学期当初より指導してきた。例えば, 授業の机の上は活動をスムーズに行うことができるように, 中央にはノート, 左前には教科書を開き, 右前には, 鉛筆, 消しゴムを置くように指導してきた。また, 授業場面に応じた発表の仕方, 話の聞き方, ノート記入の仕方, 板書とノートの連携等の授業の約束事を事前に指導しておき, それらの「授業の型」どおりに授業を進めていき, 学習活動のテンポをあげていきたい。

(b) ICTを活用する

教科書の挿絵やことば等は, 実物投影機で拡大提示して, 教師が説明・指示することにより, それらに要する時間を短縮すると同時に, 児童に明確に伝わりやすくなると思う。

ウ 目標の達成度を確認する

100のとらえ方・表し方という本時ですべての児童に理解させたい内容については, 一斉指導で, 「10のまとまりが10個で100。」「99より1大きいかずが100。」という2つのとらえ方を教えたい。そして, 理解した内容を基に, 練習問題に取り組ませる。机間指導や答え合わせの場面を通して, 目標の達成度を確認すると同時に, 理解を深めさせるようにする。

エ 学習内容をまとめる

学習内容のまとめは, 100という数のとらえ方・表し方を説明した後に行うことで, 学習内容の定着を図りたい。全ての児童が学習のめあてに対応したまとめをノートに記入することができるように, 板書を確認しながら, ノートにまとめさせるようにする。

オ 授業の振り返りをする

今日の授業でわかったこと・思ったことを中心に記入させる。その際, 具体的な振り返りができている児童を認め, 何人か発表させることで, より深い振り返りができるようにする。

目標	100 までの数の数え方や表し方を習得し、100 について理解する。	
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 既習内容の確認をし、本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個数が2位数になる絵を載せたパワーポイントを用意することで、数を数えるときには、10のまとまりに印をつけて数えたことを確認する。 ○ 教科書 P.128 の挿絵を提示し、いくつあるか問うことで、多くの数を数えたいという意欲をもたせる。 ○ 前時までと数は違っても数えるときに10のまとまりをつくることは同じであることを確認し、本時の課題をつかむことができるようにする。 	<p>○10を10個集めた数が100、99の次の数が100であることを理解できる。(知識・理解) (発言)</p> <p>○100を数字で表すことができる。(技能) (プリント)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> め 10のまとまりをつくって、はっぱのかずをかぞえよう。 </div>		
2 教科書に印をつけながら、葉っぱの数を数える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実物投影機で教科書を映しながら、最初の10枚の葉を線で囲むことで、数え方の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 ○ 残りの葉っぱも同じ方法で数えるよう指示することで、それぞれの児童が10のまとまりを意識しながら数えることができるようにする。 ○ 10のまとまりを意識することが難しい児童には、教師が教科書の葉の上に「1, 2, 3, …」と書き込むことで、線で囲んだ中の葉は10枚ずつになっていることに気付けるようにする。 ○ 早く終わっている児童には、10のまとまりに間違いがないか見直すことを促したり、10のまとまりがいくつになっているか尋ねたりすることで、学習に集中できるようにする。 	
3 葉っぱの数の数え方と百という数のとらえ方を理解し、まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 10のまとまりがいくつあったかを全体で確認する。 ・実物投影機で映した教科書を指差しながら、「10のまとまりが1個で10。10のまとまりが2個で20。…」と教え、数え方を確認する。 ○ 10のまとまりが10個で百という読み方になることを知らせ、集合数としての100のとらえ方を理解できるようにする。 ○ デジタル教科書の動画を使うことで、葉っぱが10枚重なって10のまとまりを作っていることを視覚的に捉えやすくする。 ○ 100は順番として考えると、99より1大きい数になると知らせ、順序数としての100のとらえ方を理解できるようにする。 ○ 100の2つのとらえ方(集合数・順序数)について理解した際に、ペアで説明し合う時間をそれぞれ設けることで知識の定着を図る。 ○ 百を数字で表記すると「100」となることを知らせ、ノートに練習させることで、100の正しい表し方を身に付けることができるようにする。 ○ 本時のまとめとして教師が板書することで、100という数についての正しい知識を習得できるようにする。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ま 10が10こで百という。 百は100とかく。 100は99より1大きいかず。 </div>		
4 練習問題でたしかめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習内容に沿ったプリントを用意することで、すべての児童が100という数への理解を深めることができるようにする。 ○ 机間指導により、理解が不十分な児童には個別に助言する。 	
5 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習で分かったことをノートに書かせ、自分の学習について振り返りができるようにする。 	